

平成29年度 行政評価事業別シート

実計対象		☐	評価対象	☒	新規	☐	完了事業	☐	ゼロ予算事業	☐	担当者	鈴木・富沢
全体計画					経費区分	—			内線			
事務事業名		4217 河川管理事業										
所 属		200100 まちづくり推進部・道路河川課										
施 策		06033300 橋や道路整備の推進										
予 算		01 一般会計										
科 目		080301 土木費・河川費・河川総務費										
事 業		020000 河川管理事業										
事業目的						事業概要・効果						
災害・水害に強いまちづくり						河川管理施設の維持管理に努めると共に河川改修事業の促進に向け組織する関係市町村と共に国県へ要望し、災害・水害に強いまちにする。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
水路浚渫工事の実施。	高梨小島線横断暗渠浚渫工事外3件
平成29年度 予定	平成30年度 予定
水路浚渫工事の実施。	
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指 標 名	無し					
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						
指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						
指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成28年度 決 算	平成29年度 予 算
事業費		4,397	3,629
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		4,397	3,629
人員数 (人)	正規職員	0.4	0.6
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	2,887.6	4,331.4
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	2,887.6	4,331.4
市民一人当たりの経費		0.1	0.2
総額		7,284.6	7,960.4

(単位：千円)

平成28年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	53	消耗品等
13節 委託費	760	除草等作業委託料
15節 工事請負費	2,776	浚渫工事費
19節 負担金補助及び交付金	808	同盟会、協会負担金等
その他	0	

(単位：千円)

平成29年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	39	消耗品等
13節 委託費	760	除草等作業委託料
15節 工事請負費	2,000	浚渫工事費
19節 負担金補助及び交付金	830	同盟会、協会負担金等
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	高い
評価コメント	必要である。	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	有効
評価コメント	上がっている。	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	変わらない
評価コメント	おのおのの場所により内容が異なるためコスト削減は難しい。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

実施箇所が年々増加し、緊急性の高いところから適正に修繕を進めている。

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
住民要望を踏まえ、優先順位を決め、引き続き事業を実施する。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
災害・水害に強いまちづくりを進めるため、河川の維持管理、また緊急度の高い箇所より継続して実施していく。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	